

*XT-410 Express Boat Tender*

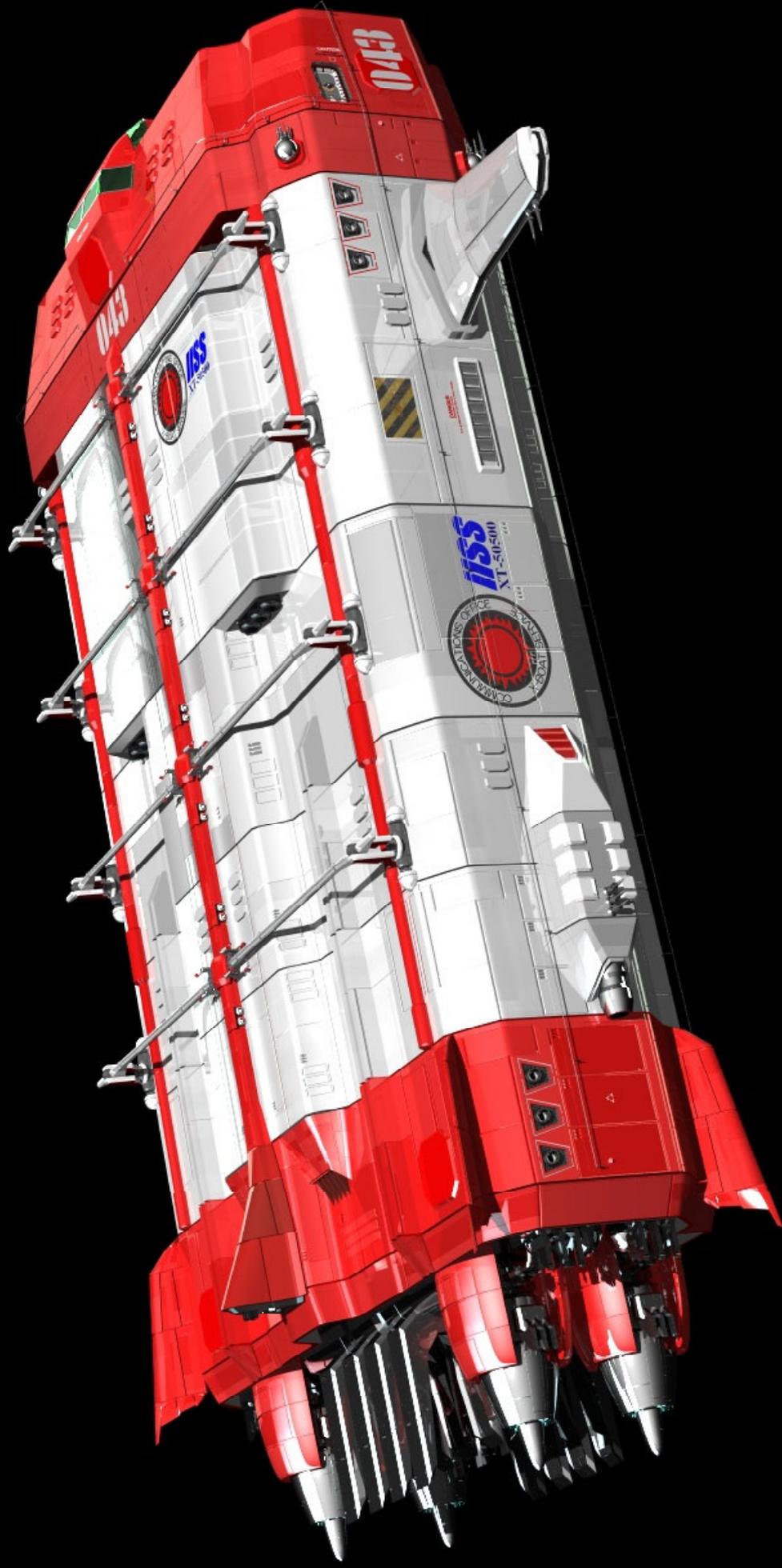
XT-410 型連絡補給艦

# *MEGA TRAVELLER*

Science -Fiction Adventure  
in the Far Future

CG softs: Shade8.5, Poser7J & Vue5

# Express Boat Tender 09



## 帝国の通信システムと連絡補給艦

Xボートは、第三帝国 The Third Imperium の生命線である。光速を瞬時に超える FTL (Faster Than Light) ジャンプシステムは、銀河の海原を航海することを可能としたが、リアルタイムで超光速恒星間通信を行うためのシステムは未だ開発されていない。従って情報の伝達は、小型で高いジャンプ能力を有する宇宙船か、ジャンプミサイルと呼ばれている小型の通信筒を介して行わざるを得ない。

後者のジャンプミサイルは、超小型 FTL ジャンプ装置を内蔵した極めて高価な使い捨て連絡筒であるが、質量が小さい故にジャンプ誤差が高く、しばしば貴重な情報とともに行方不明となる。このため、現段階では、確実性、機密性、信頼性に乏しいと評価されている。ジャンプミサイルは、主として大型の軍用艦や Deep Space Mission に付く大型偵察艦に、数発程度しか搭載されていない。

よって通常の帝国の通信網は前者の小型宇宙船に依存するところが大きい。こうした小型で高いジャンプ能力を持った宇宙船は一般に連絡船 Xボート (Express Boat) と呼ばれている。連絡船の最大ジャンプ能力は 4 パーセクであるが、近年、次々に XB-610 型が就役しつつあり、最大ジャンプは 6 パーセクに引き上げられつつある。



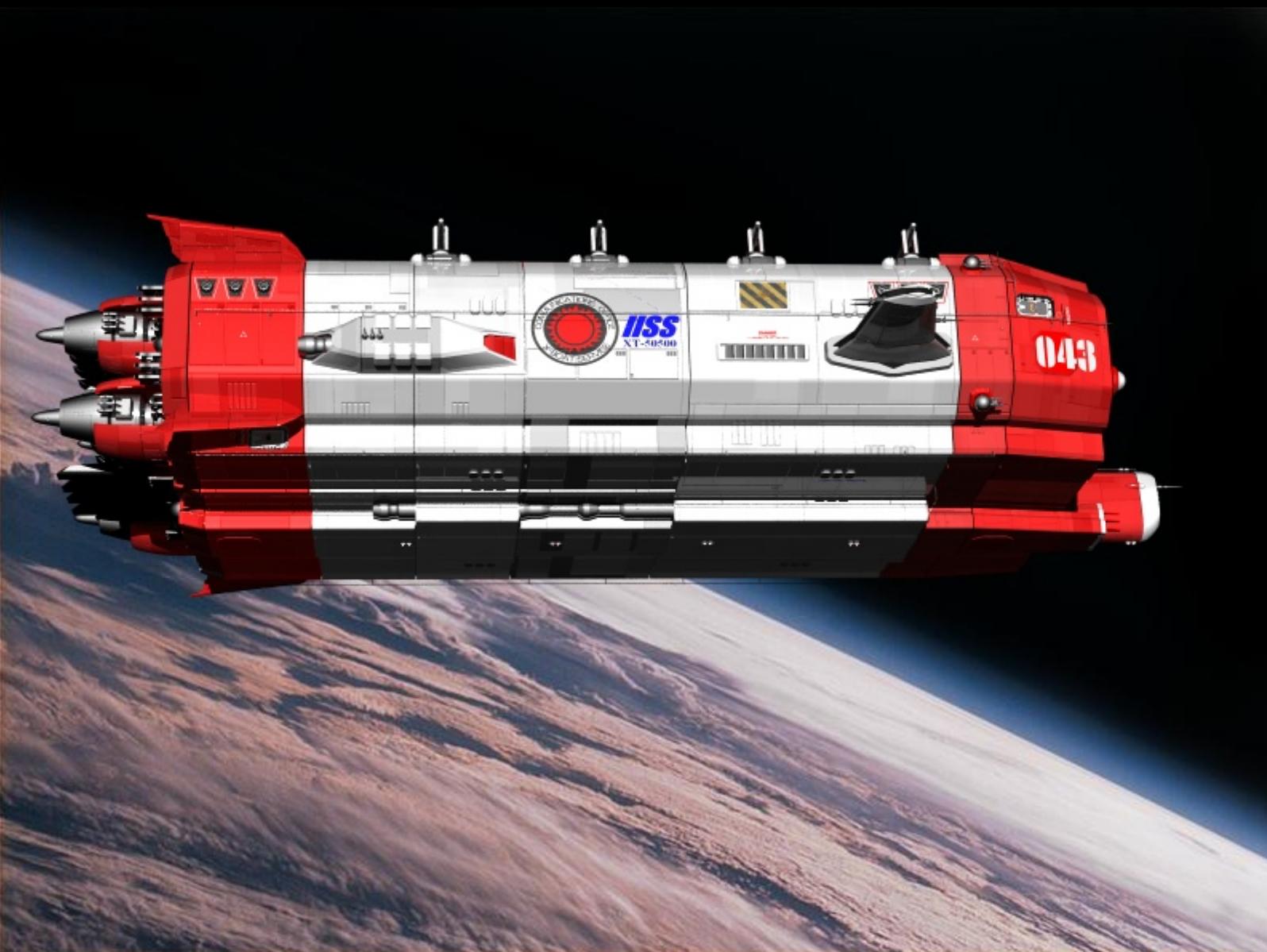
Xポートによる通信ネットワークは、帝国首都であるキャピタルから延々と延びている。情報は指定航路に沿って分岐しながら流される。

ある星系にXポートが到着すると積載する情報は瞬時に待機中の別のXポートに転送される。情報の転送が終了すると新しいXポートは直ぐにジャンプし、次ぎの星系へと向かうのである。残されたXポートは所定の回収システムに従いXポート母艦、即ち連絡補給艦へと移送され、整備と燃料補給が実施される。そして次のXポートの到着を待つことになる。

こうして情報はリレー式に次々とXポートからXポートへと引き継がれ、広大な銀河帝国中に広がってゆくわけである。

この情報システムの維持管理を一手に担っているのが帝国偵察局 IISS (Imperial Interstellar Scout Service) 通信部Xポート課である。偵察局はXポート路線上に基地を持ち、帝国の大動脈となって生命線を支えている。

一方、Xポート路線から外れた星系には、Xポート中継基地をハブとして、S型偵察艦がローカルネットワークを構築している。このネットワークは、通信部連絡課により運営されている。S型偵察艦は恒星間長距離航行に耐える性能を有しており、幾つもの星系を回りながら情報を伝達していくこととなる。

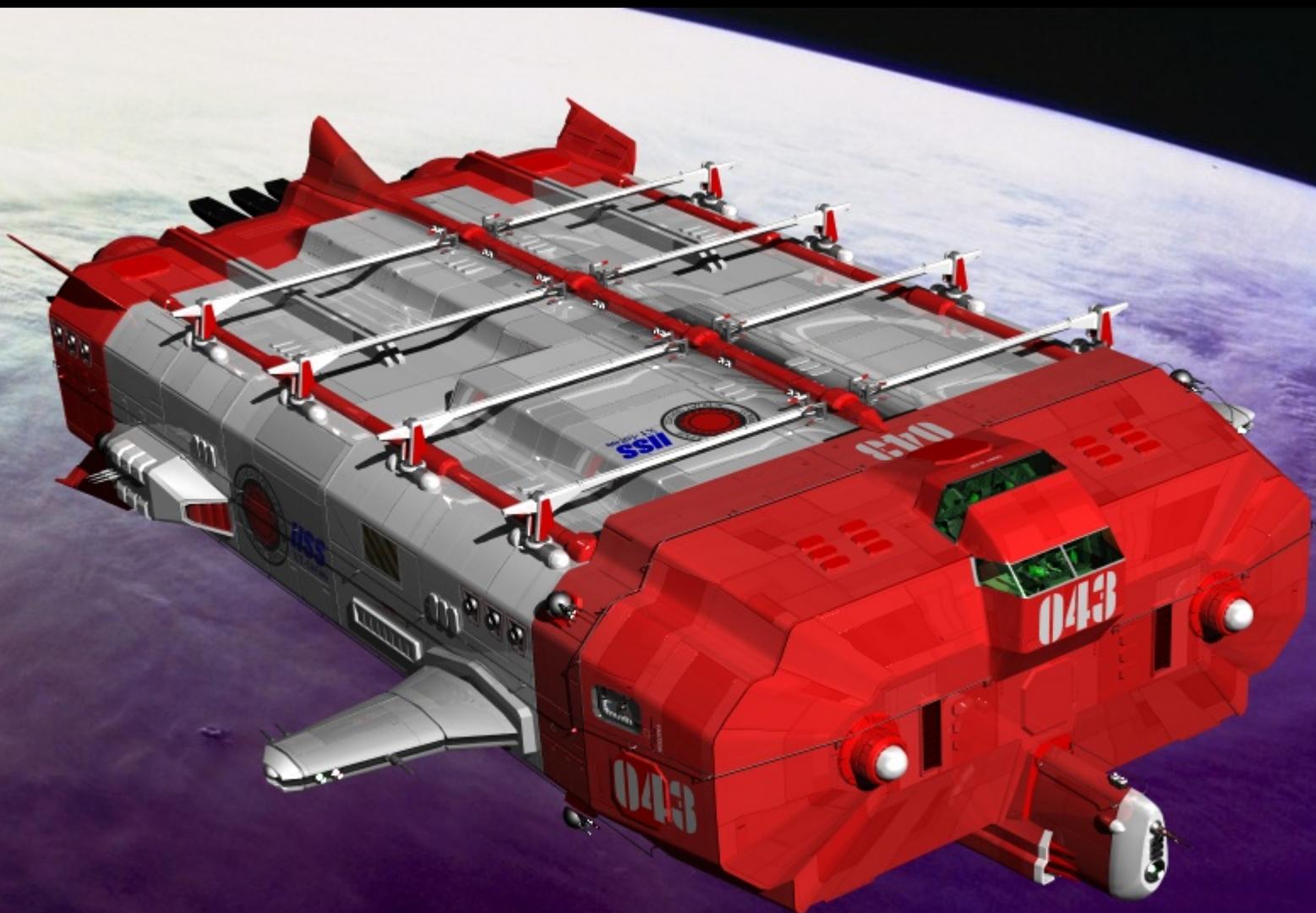


## XT-410 型連絡補給艦の概要

XT-410 型連絡補給艦は、膨大なタイプが存在する連絡補給艦の一つである。連絡補給艦は、高速／遠距離／大容量通信装置を備えており、Xポートからの情報を瞬時に当該星系内や、次のXポートへと中継する。同一目的の中継用宇宙船は、既に把握できないほどの数が就役している。船体は一般に1000Dtの場合が多いが、要求される中継能力や中継環境に応じて規模や性能は様々である。

メガコーポレーションや準メガコーポレーションもまた、同様の中継システムを構築している場合がある。情報需要の高い高人口世界間などにおいて、恒星間貿易戦争を勝ち抜くための独自のネットワークが密かに構築されており、時として帝国政府を超えるような情報伝達が行われている。

XT-410 型連絡補給艦は、MASA社が建造した連絡補給艦の一つで、第5次辺境戦争において、多数の損失を被ったXポート連絡網を再構築するために、グリッスン公爵の肝煎りで建造が開始された、最新型の連絡補給艦である。



# XT-410 型連絡補給艦のデッキプラン

XT-410 型連絡補給艦は、垂直デッキタイプの宇宙船であり、17 層のデッキを有している。船は上部から Deck01~Deck17 となっている。各デッキの高さは 3m である。

艦中央部には、全デッキに通じるエレベータ 2 基とラッタルが設置されている。両舷には、第 3 デッキから下部に通じる非常用通路が設けられている。艦の制御系統、エネルギー伝送系統はこれらの通路から容易にアクセスできる位置に設けられており、そこから各デッキ内へ通じている。

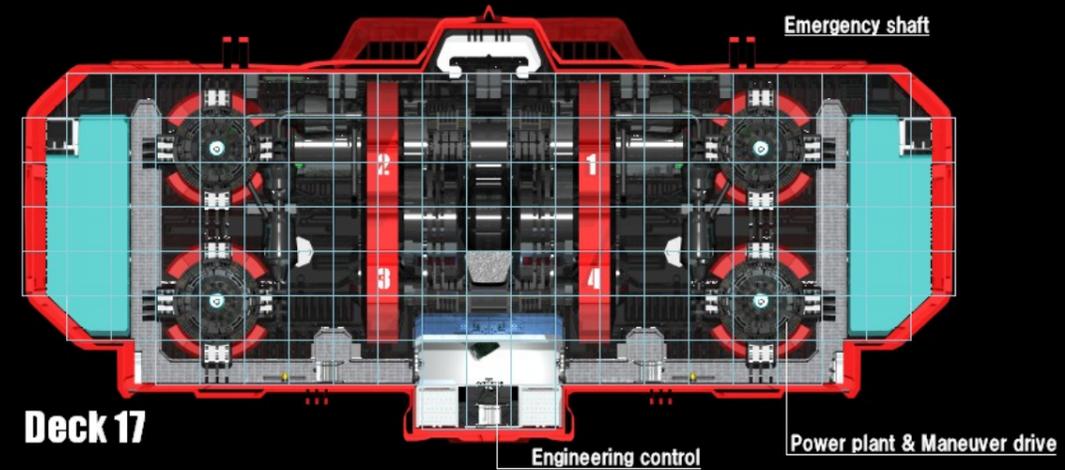
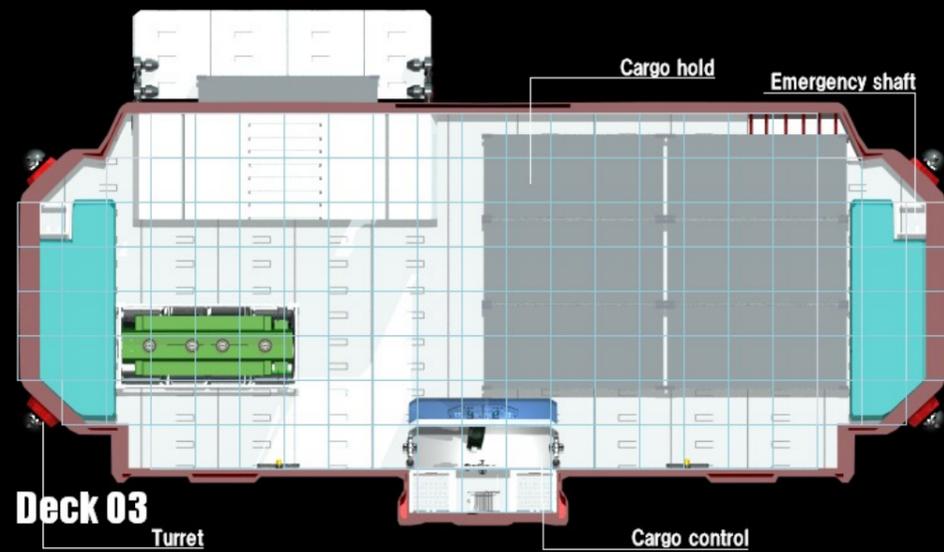
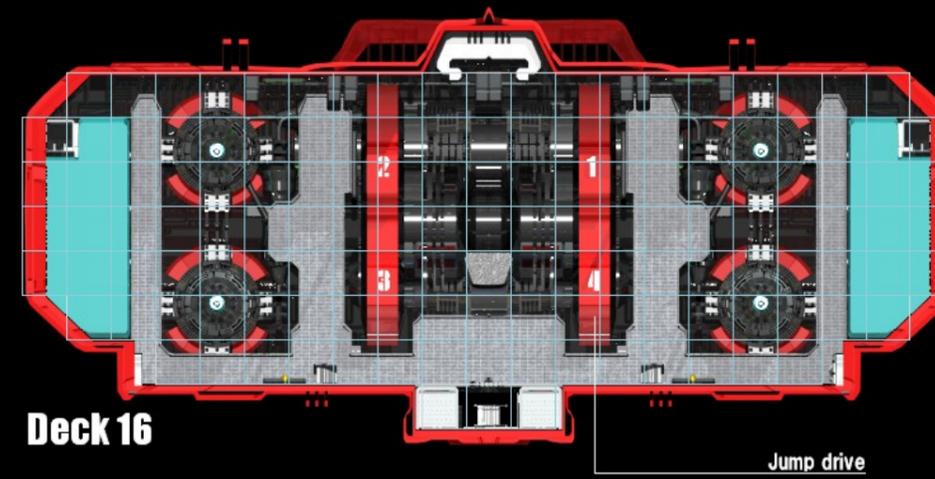
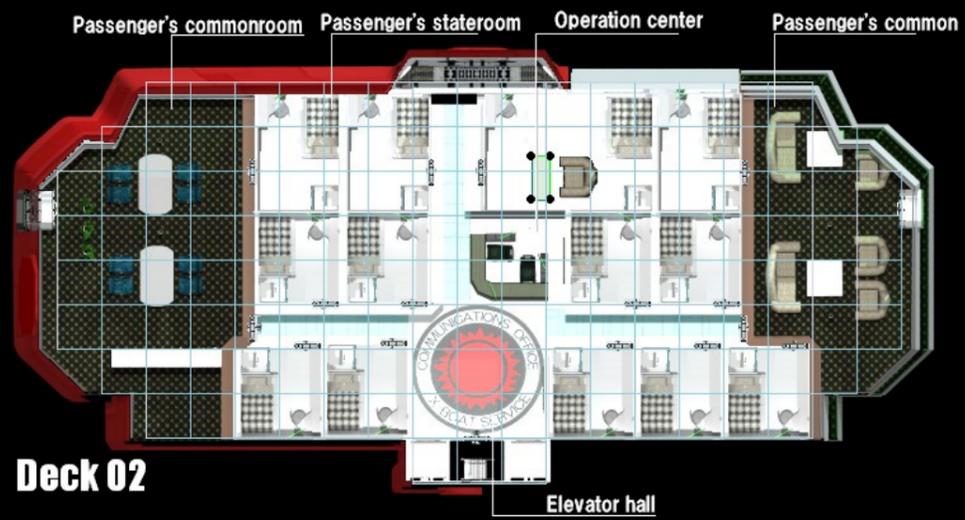
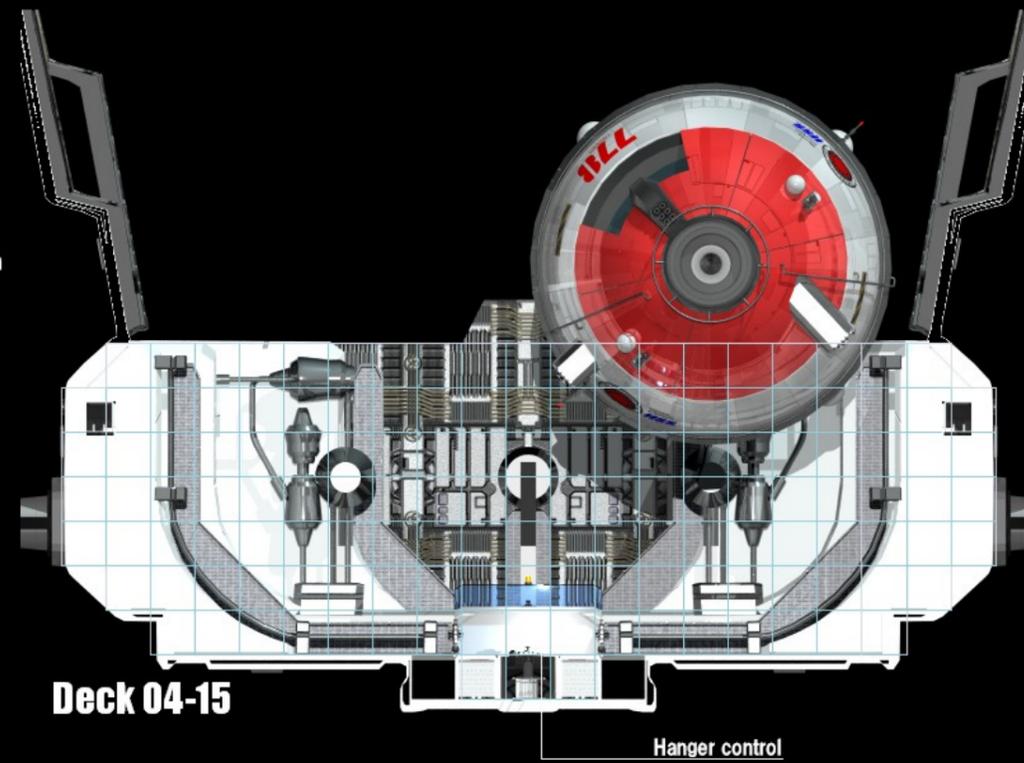
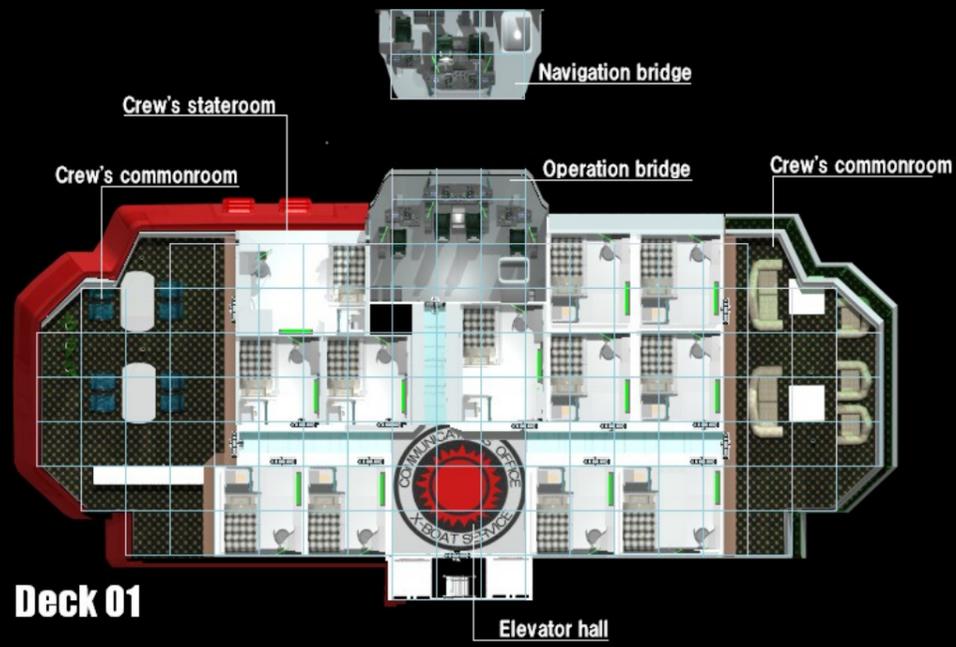
**Deck01** 制御区画である。制御区画は、通信装置、探知器、艦橋、制御装置、火器管制装置、乗員用専用室、乗員用共用室とから構成されている。

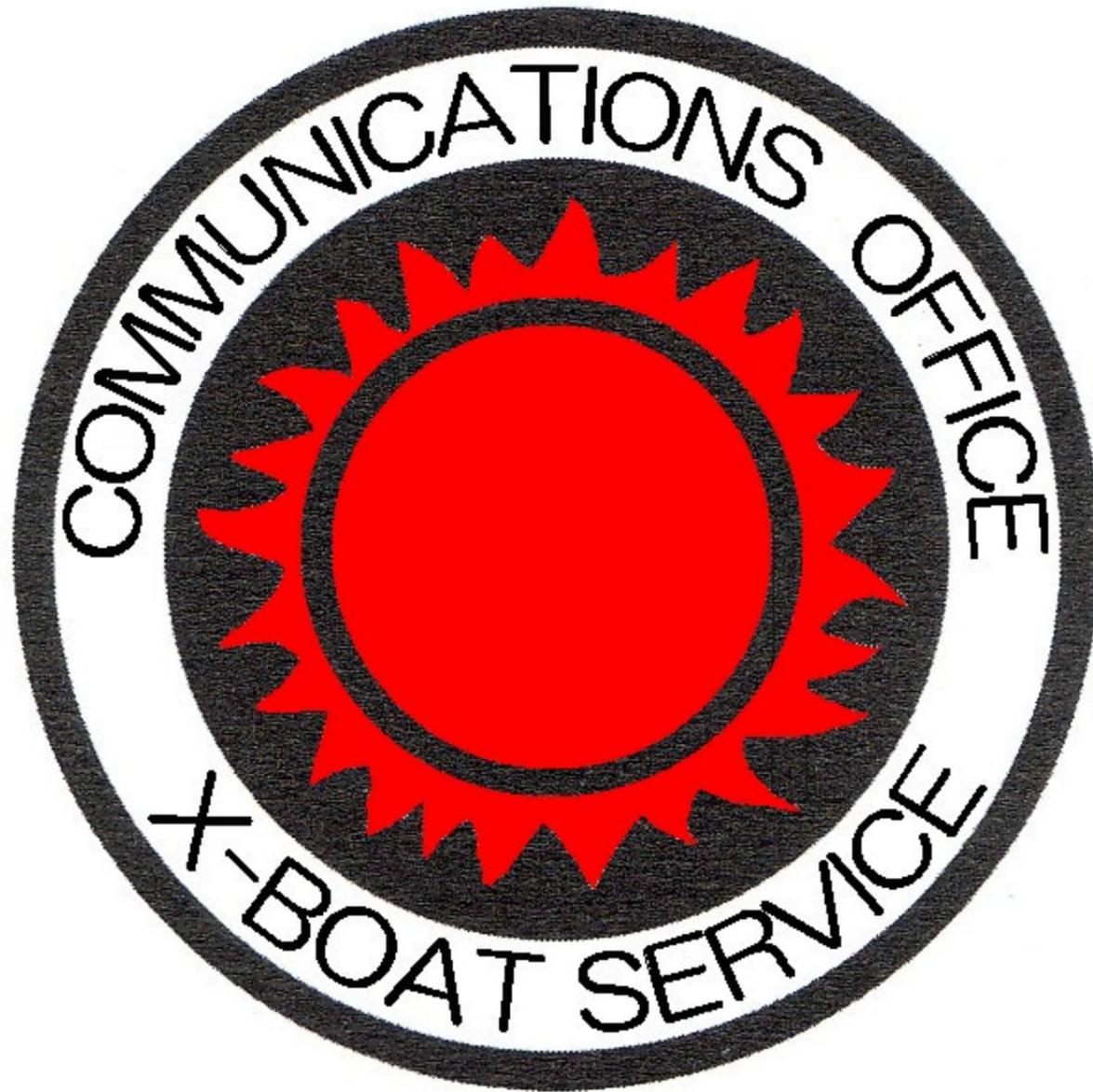
**Deck 02** は、船客区画である。X ポートの乗員、待機・交代要員、X ポートに搭乗する旅客のための一時滞在スペースとなっている。船客区画は、船客用の専用室と共用室から構成されている。また両舷にはドッキング用エアロックが設けられている。

**Deck 03** は、貨物区画で貨物管理室、貨物用エアロック、コンテナ倉庫、特殊貨物倉庫、予備部品倉庫、燃料タンク、武器設置点が設けられている。このデッキは標準的な 4~6Dt 貨物の取り回しを中心に構成されている。コンテナは、この区画の他、船外に係留される場合が多い。幾つかの艦では、この区画に船外作業用バギーの格納庫が設けられている。

**Deck 04-15** は、格納庫区画となっており、格納庫管理室、密閉式格納庫、係留クレーン、及び燃料タンクが設けられている。これらのデッキに設けられている格納庫は、Deck04~Deck15 が巨大な貫通空間となっている。与圧状態で同時に 3 隻の X ポートの整備を行うことができる。係留クレーンは一度に多くの X ポートを係留するための設備であり、本型には 8 基が設けられている。

**Deck16-17** は、エンジニアリング区画であり、機関制御室、燃料精製装置、燃料ポンプ、パワープラント、ジャンプドライブ、通常ドライブ、燃料タンクが設けられている。





**MASA/MASA04's XT-class TANKER from MASA.Ship's**

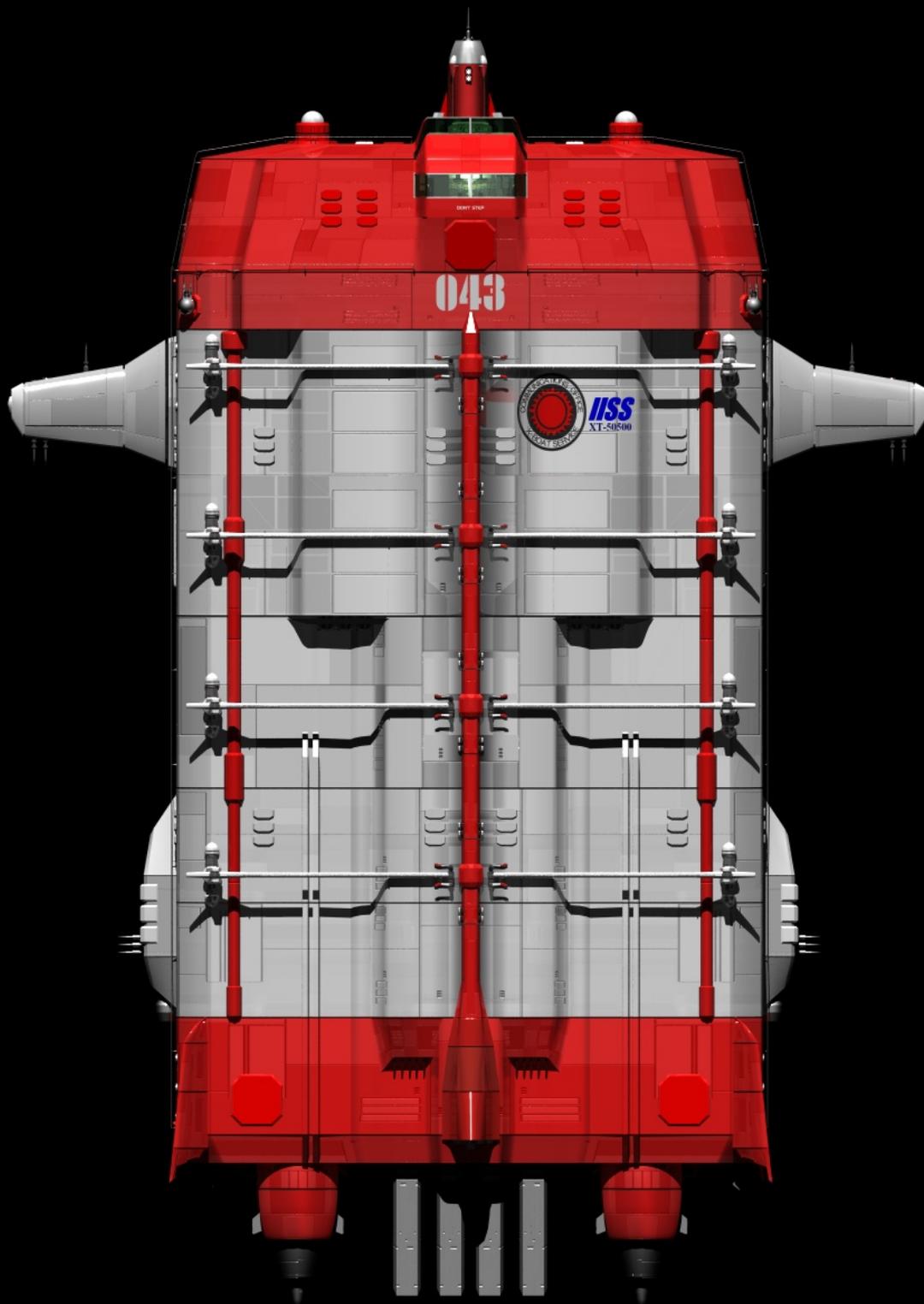
CraftID: XT, Type XT, TL 15, MCr 280  
 Hull: 900/2250, Disp= 1000, Config= 4USL, Armor= 40G  
 Unloaded= 4852 tons, Loaded= 5568 tons  
 Power: 12/23, Fusion= 3168 MW, Duration= 30/90  
 Loco: 18/36, Maneuver= 1  
 45/90, Jump= 4  
 NOE= 75, Cruise= 225, Top= 300, Vacuum= 1200  
 Agility= 0  
 Commo: Radio= System x1, Laser= System x1, Maser= System x1  
 Sensors: PasEMS= Interstellar x1, ActEMS= FarOrbit x1  
 Densitometer= LowPen/250m x1, HighPen/1km x1  
 Neutrino= min 10kw x1, EMSjammer= FarOrbit x1  
 ActObjScan= Rout, ActObjPin= Rout  
 PasObjScan= Rout, PasObjPin= Rout  
 PasEngScan= Simp, PasEngPin= Rout  
 Off: Missiles= xx 3  
 Def: DefDM= +5  
 ArmorDM= 0, SizeCd= A  
 Control: Computer= Model/4 x3, Panels= HoloLink x7  
 Special: HUpHoloDisp x7  
 BasEnv, Bas LS, Ext LS, Grav plates, Inertial comp  
 Accom: Crew= 17 (1 x 17), Staterooms= 16  
 Bridge= 2, Engrng= 3, Mtce= 0, Gunnery= 4, Flight= 4  
 Troops= 0, Command= 2, Stewards= 1, Frozen= 0, Medical= 1  
 HiPass= 4, MidPass= 8, LowPass= 0, LowBerth= 0, EmerLow= 1  
 SubCraft: Rider (100) x4  
 Other: Fuel= 4515 kliters, Cargo= 400 kliters  
 ObjSize= Average, EMLevel= Moderate  
 Design Notes  
 MCr 224 in quantity

	DESIGN		DECKPLAN															TOTAL		
	D.T.	SQRT	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		16	17
Hull	(1000)	2,400	108	106	143	150	150	150	150	150	142	142	142	140	140	140	140	130	130	2,353
Power	13	31																14	14	28
Locomotion	70	168																82	82	164
Commo	0	0																		0
Sensors	1	1	1																	1
Weapons	5	12	6	6																12
Screens	0	0																		0
Environment	31	75	19	20	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	73
Bridge	2	4	4																	4
Hangar	440	1,056			20	112	112	112	112	112	80	80	80	58	58	58	36			1,030
Accommodations	66	158	78	80																158
Fuel	343	823			50	36	36	36	36	36	60	60	60	80	80	80	102	30	30	812
Cargo	30	71	0	0	71															71

# XT-410 型連絡補給艦の詳細

## 船体構造

XT-410 型連絡補給艦は、全長 63m、総排水トン数は 1,000 トン、重量 4852 トン、満載重量 5568 トンである。船体は結合超密素材、通称G種別鋼を用いた 40 レベルの装甲板に覆われている。結合超密素材は、分子構造の一部を強力な人工重力場で重力崩壊させ、密度と強度を増し、更に内部の電磁結合を強めるために、微量の誘導電流を使用した超密素材である。



船体基本形状は、方形流線形船体で、ガスジャイアントからの燃料補給を容易とするため、流線形化されている。建造コスト削減の為、船体構築にはブロック建造工法が積極的に用いられた。

## Deck 01

このデッキは、制御区画である。制御区画は、通信装置、探知器、艦橋、制御装置、火器管制装置、乗員用専用室、乗員用共用室とから構成されている。

**通信装置**：電波通信装置 (SYSTEM) RS-15A, レーザー通信装置 (SYSTEM) LS-15A, メーザー通信装置 (SYSTEM) MRS-15A を1機ずつ装備している。これらのベースは民生品であるが、偵察局の規格に合うように信頼性を高めた構成となっている。これらは船首の**通信タワー**に設けられており、連絡補給艦の機能の中枢を担っている。

**探知機**：受動EMS (Interstellar) PEMSF-IS/8, 能動EMS (Far Orbit) AEMSF-FO/7, 質量探知機低レベル (250 m) DSF-Lw25, 高レベル (1km) DSF-Hi1000, 中間子探知機最小 10kw NSF-10, EMS 妨害装置 (Far Orbit) EMSJF-FO/4 を1機ずつ装備している。何れも **GASBUG 社**系列の **ANSON 社**の最新モデルで、帝国海軍、偵察局の艦艇で多く装備されている。

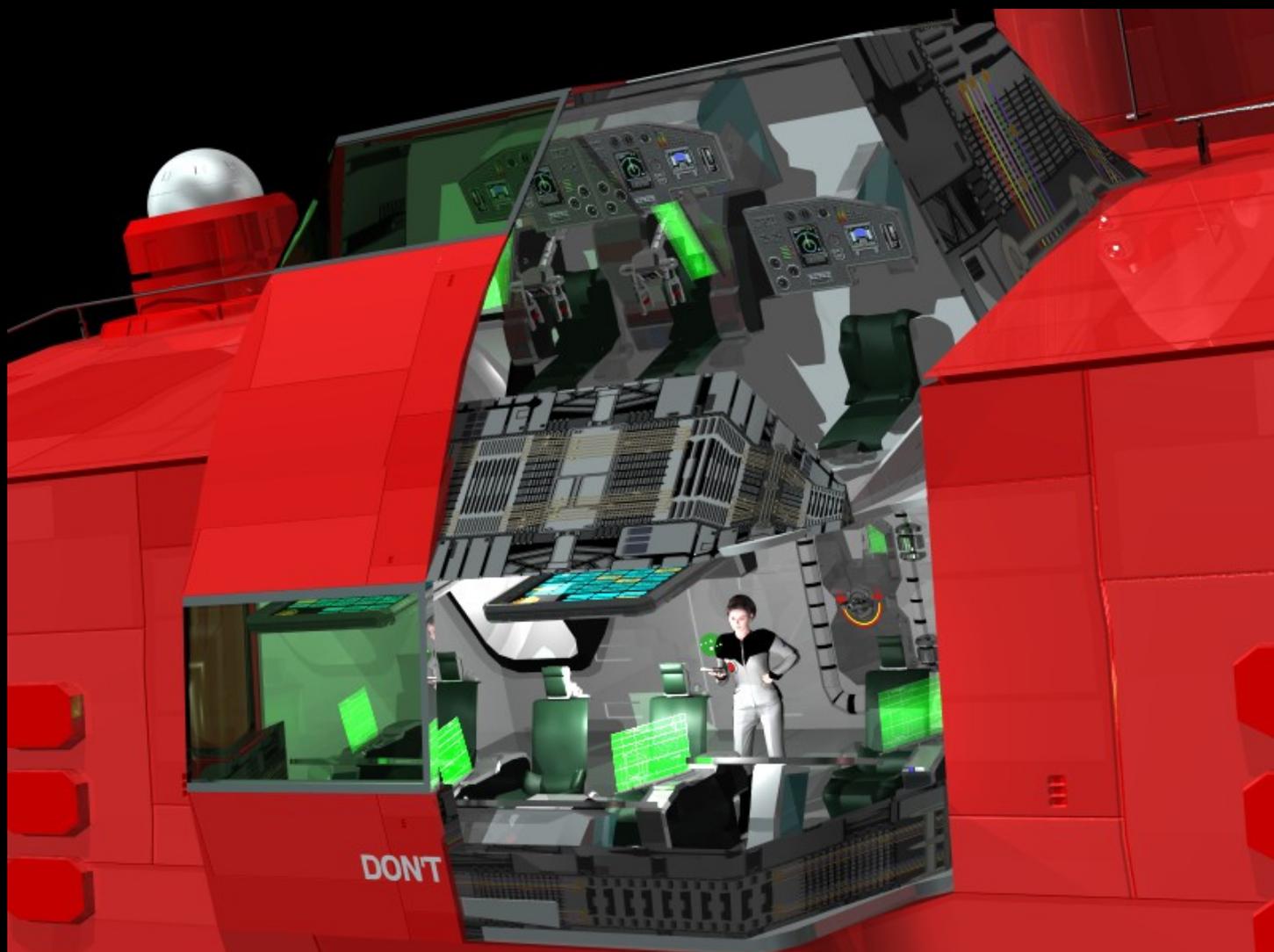


**艦橋**：艦橋からは艦内の全ての機能をコントロールすることができる。連絡補給艦の艦橋は、航海艦橋と管制艦橋から構成されている。航海艦橋のみデッキ配置方向が異なっている。これは操艦時の目視機能を重要視したものである。航海艦橋から管制艦橋までは1/4円弧の連絡通路で結ばれている。

航海艦橋は文字通り、連絡補給艦が移動する場合に主として使用される。小型船を多数有する偵察局の航海関連の内規が進行方向に対する一定の目視を義務付けているためこのような変則的な構造となっている。前列2つのシートは左舷側が主パイロット、右舷側が副パイロット、右舷後方が指揮官シートとなっている。

管制艦橋は、連絡補給艦が**Xポート回収ゾーン**にて行動する場合の管制室となっており、回収ゾーンの交通管制、係留作業、燃料再補給等を統一的に管理する。前列2つのシートは左舷側が主管制官、右舷側が副管制官、後列左舷側が主通信士、右舷側は指揮官席となっている。

**制御装置**：艦橋基部には**MODEL4**の大型のコンピュータが3台設置されている。これらのコンピュータは通常と異なり非常に大きなメモリー領域を有している。船内の環境は、**基本環境システム**、**基本生命維持システム**、**上級生命維持システム**、**重力制御プレート**、**慣性中和装置**などの各システムで保たれている。



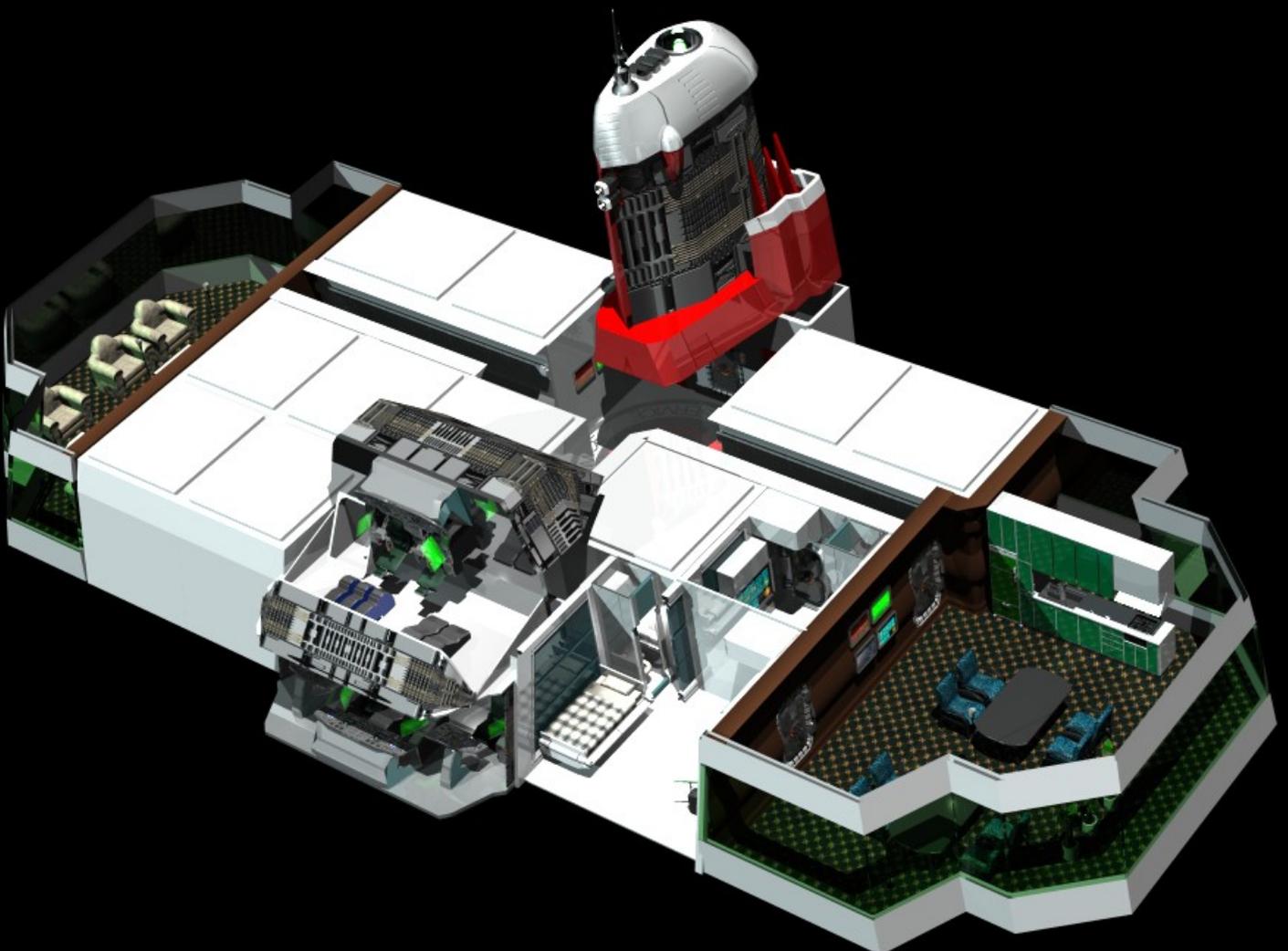
**火器管制装置**：4 箇所の砲塔は艦橋からの遠隔操作となっている。

**乗員用専用室**：Deck01 には、2dt 程度の大きさの専用室が 12 室設けられている。連絡補給艦の乗員は、士官 2 名、航海要員 2 名、機関要員 2 名、砲手兼保安要員 4 名、整備要員 4 名、主計要員 1 名、医療要員 1 名の合計 16 名である。艦橋に隣接する大きな部屋は通常艦長室として使用される。よってランクの低い乗員は 2 名 1 室使用となる。

各専用室には**コンピュータ端末**、ベッドが備えられている。外壁面側は壁面モニターとなっており、様々な三次元映像を映し出すことができる。各専用室には、シャワー、洗面施設、トイレが一体となった衛生設備が備え付けられている。ベッドは個室内でも広いスペースが確保できるように昇降式となっている。

**乗員用共用室**：デッキ両側には、共用スペースが設けられている。左舷側はリクライニングスペース、右舷側は食堂として使用される。床下と壁面下部に**自動食料倉庫**が設置されている。乗員の食料はここに全て納められており、自動調理された食料はスチュワードロボットにより給仕されて提供される。

航海中は Deck01 の乗組員区画と Deck02 の乗客区画は切り離されている。同じ偵察局員であっても乗客は Deck02 のみで行動を許可される。**ハイジャック防止プログラム**が装備されており、船内はくまなくコンピュータにより監視されている。



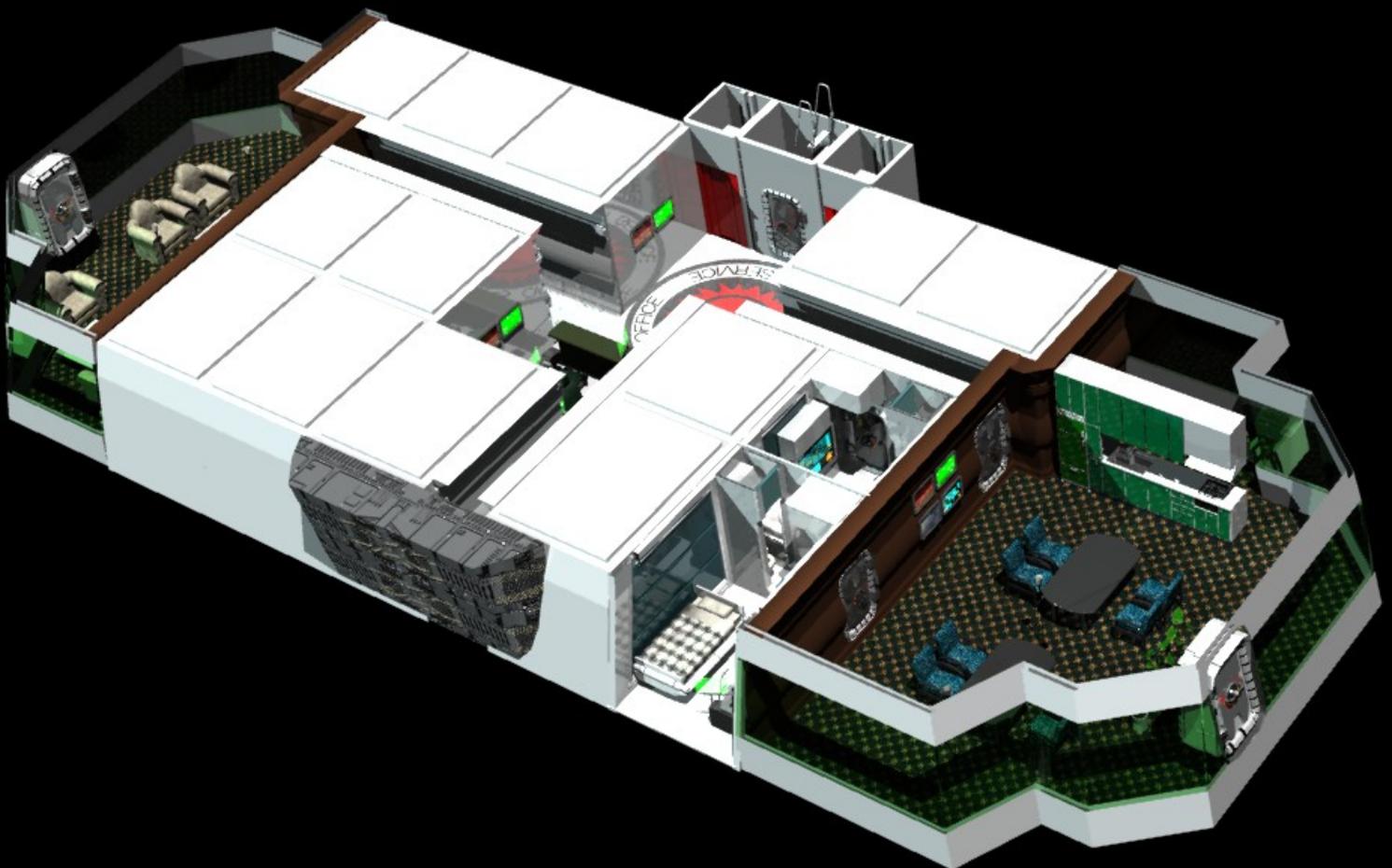
## Deck 02

このデッキは、船客区画である。Xポートの乗員、待機・交代要員、Xポートに搭乗する旅客のための一時滞在スペースとなっている。船客区画は、船客用の専用室と共用室、医務室、運行管理室から構成されている。また両舷にはドッキング用エアロックが設けられている。

**乗客用専用室：** やや広めの上級専用室が4つ、2Dtの標準専用室が8つ、設けられている。各専用室には、シャワー、洗面施設、トイレが一体となった衛生設備が備え付けられている。標準の専用室は3m×3mの広さである。専用室には、一般に4つの機能が求められるが、専用室には、それらの機能がコンパクトにまとめられている。4つの機能とは、睡眠、食事、衛生、娯楽である。この他、専用室には手荷物の収納スペースも求められる。

睡眠については、標準サイズのベッドが備えられている。コマンドにより壁に収納できる折り畳み式で、0-1.5Gの重力調整機能を有している。

食事については、折りたたみ式のテーブルと椅子で、部屋で食事をする場合には、食事はラウンジから運ぶこととなる。部屋には小型冷蔵庫が備えられており、スナックと軽食が随時提供可能となっている。



衛生については、**フレッシャー**が備えられている。フレッシャーには、多機能シャワー、トイレ、洗面台、ドライヤーなどから構成されている。全ての装備は折り畳んで邪魔にならないように収納できる。

娯楽は、ジャンプ航海には欠かせない要素の一つである。娯楽の種類は、ホログラフ映像の他、コンピュータとのゲーム対戦、**ライブラリーデータ**へのアクセスなどが可能である。深宇宙での精神的な付加軽減のため、可能な範囲であらゆる種類のエンターテインメントが提供されている。

これらの専用室は、Xボートに搭乗する旅客のための一時滞在スペースともなっているが、Xボートを使用するのは、偵察局員の部内移動、帝国政府の関係者、星系政府等の依頼により偵察局が認めた関係者に限られており、商業ベースでの利用は殆ど見られない。

**医務室**：船室の一つは医務室として使用されており、緊急用二等寝台が設置されている。医務室は左舷側の共用室の脇に設けられている。



**乗客用共用室**：Xボート乗員用の共用室として、左舷側にリクライニングスペースが、右舷側にダイニングが設けられている。両共用室とも、ダイニングサロン、ダンスフロアー、エンターテイメントエリア等、様々な用途に合わせて切り替えて利用することができる。家具類は床下の収納庫に収納することができる。

壁面には船外や望む風景を立体投影することができる。通常はラウンジとして使われているが、会議、ゲーム、フィットネスなどの目的に応じて使い分けられる。

左舷側の**リクライニングスペース**は、通常は心地よいソファが並べられており、Xボートパイロット達の貴重な交流の場として利用されている。深宇宙で孤独に過ごす機会が多いパイロット達にとってこのラウンジは、生身の人間達と会話を交わすことができる、貴重な交流の場となる。

連絡補給艦の医療要員は、パイロット達の会話に耳を傾けながら、彼らの精神状態をチェックすることとなる。

港や他船とドッキング際は、このリクライニングスペースに設けられた左舷エアロックが**メインゲート**になる。ここには宇宙服や船外作業装備も収容されている。右舷側エアロックは通常は使用されない。



右舷側の**ダイニング**は、基本的には左舷側の共用室と同じ構造である。床下と壁面下部に自動食料倉庫が設置されている。Xボート乗員用の食料はここに全て納められる。自動調理された食料がスチュワードロボットにより給仕され提供される。

壁面にギャレーが設置されているが、基本的に料理は全自動なので、ここでは簡易な作業しか行われない。通常は、**スチュワードロボット**がここを仕切っている。

共用室では、Xボート乗員達のストレスを解消するために、食事ごとにメニューと内装が変更される。メニューが気に入らない場合には、自身の専用室で**ルームサービス**を利用することもできる。その他の食事の場合、乗客は食事の時間とメニューを船内コンピュータに予め予約することとなる。朝食はビュッフ形式が多い。

3日に1回程度の割合で、**艦長主催の正餐**が行われ、この時は全員がフォーマルな偵察局員の礼服を着用して交流が図られる。食後は左舷側のリクライニングスペースに移動してデザートや食後のワイン、喫茶を楽しむこととなる。



**運行管理室**：デッキ中央部には、エレベータホールと運行管理室が設けられている。Xポート乗員達は、この運行管理室にショーアップして運行計画を説明された後、割り当てられたXポートへ乗り組むこととなる。

また任務を終了したXポート乗員も、この運行管理室でデブリーフィングを行う。

運行管理室には、常に**運行管理官**が配置されており、運行のみならずXポート乗員の滞在中のあらゆる要望に答えられるよう体制が整えられている。例えば、Xポートパイロットが休暇で当該星系に観光にでかけたいような場合には、当該星系までのシャトル便の手配から、滞在先での宿や食事の予約まで、運行管理官は、きめ細かいサービスを提供する。

エレベータホールには、帝国偵察局 ISS(Imperial Interstellar Scout Service)通信部 Xポート課のエンブレムが描かれている。グリッスン星域周辺の偵察局には、昔ながらの慣習が今も伝承されている。最初の単独通信任務につくパイロットは、輝く太陽の紋章の中心で、帝国と皇帝への忠誠を誓い、引退するパイロットは、同じ場所で帝国の久遠の繁栄を願うのである。

偵察局を題材にしたドラマでは余りにも有名なシーンであるが、艦によってはこれにケーキカットやシャンパンシャワー等のオプションが加わっており、今も様々な形で脈々と受け継がれている。



## Deck 03

このデッキは、貨物区画であり、貨物管理室、貨物用エアロック、コンテナ倉庫、特殊貨物倉庫、予備部品倉庫、燃料タンク、武器設置点が設けられている。

**貨物管理室**：貨物区画全体を管理する部屋で、エレベータシャフトに隣接して設けられている。ここからは、貨物デッキ内の貨物用エアロック、区画全体の気密や重力の制御を行うことができる。

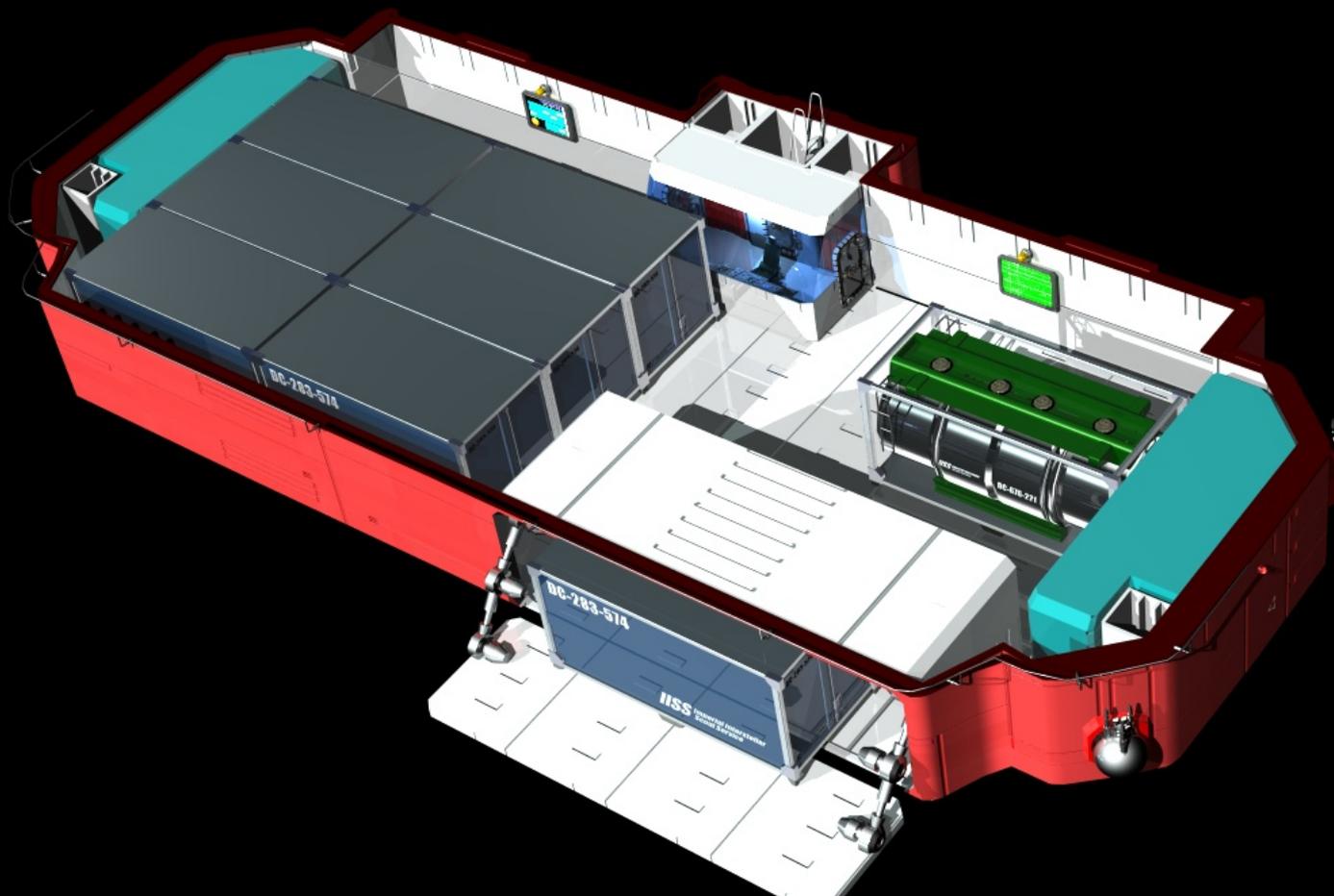
**貨物用エアロック**：貨物を搬入するためのエアロックである。4～6Dtの標準型コンテナに対応している。

**コンテナ区画**：貨物室には8個の4Dt標準型コンテナを収納することができる。貨物デッキは標準型の4～6Dtコンテナを並べ拘束できるように作られている。

**特殊貨物倉庫**：ばらばら貨物、特殊貨物、危険貨物、環境に制約される貨物等を収納するための倉庫である。

**予備部品倉庫**：Xボートの整備に必要とされるあらゆる部品が格納されている。

**武器設置点**：武器設置点は、4箇所設けられているが武装の程度は様々である。これらは全て艦橋で遠隔制御される。



## Deck 04-15

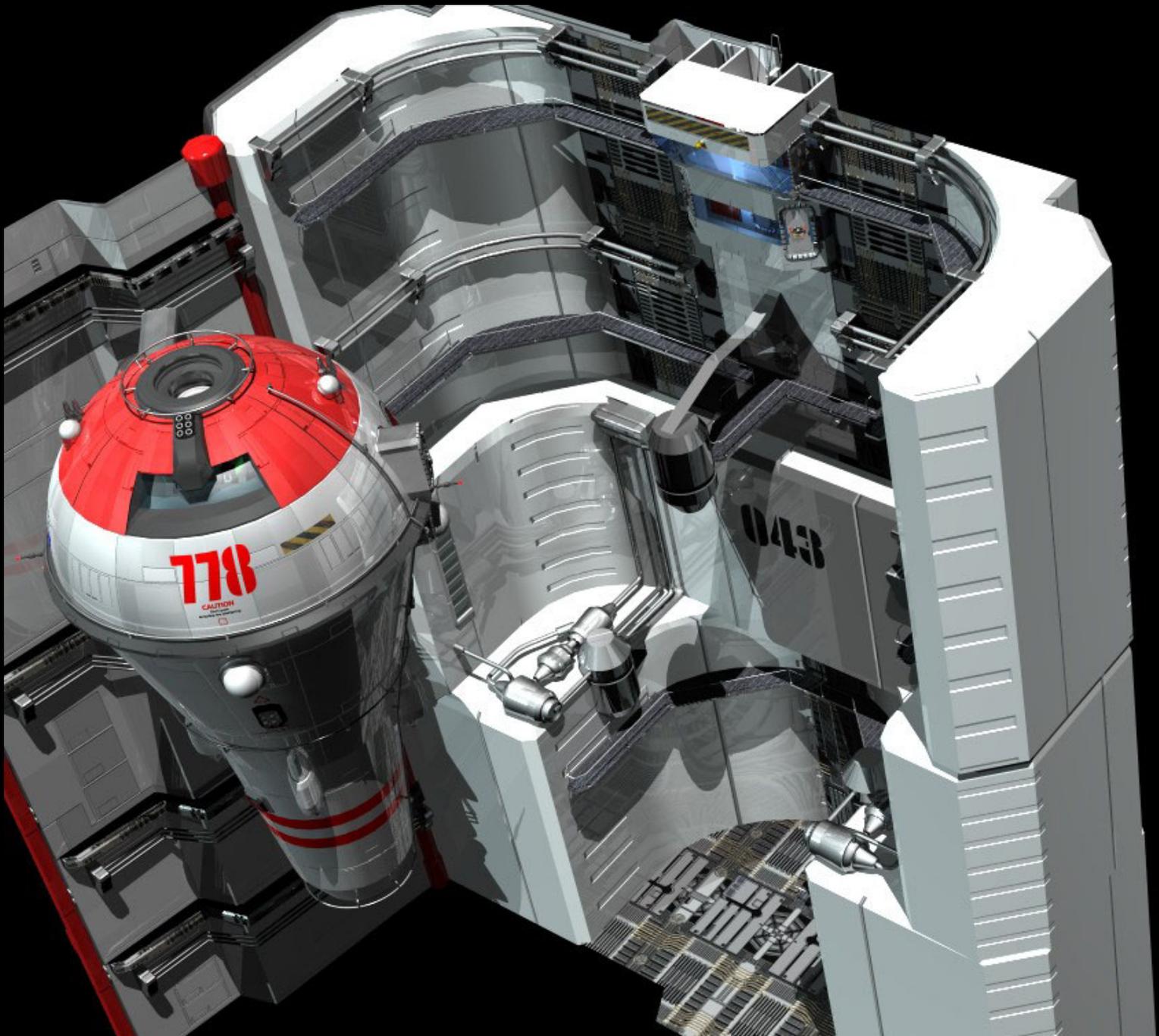
Deck04 から Deck15 までは、巨大な格納庫区画となっている。ここには、格納庫管理室、密閉式格納庫、係留クレーン及び燃料タンクが設けられている。

**格納庫管理室**： Deck04 には、格納庫管理室が設けられている。この管理室から、格納庫内の与圧、ハッチの開閉、係留クレーン等が操作される。

**密閉式格納庫**： 格納庫は、Deck04～Deck15 が巨大な貫通空間となっている。与圧状態で同時に 3 隻の X ボートの整備を行うことができる。Deck05 には X ボートとのドッキングチューブが設けられている。格納庫内にはキャットウォークが設けられている。

**係留クレーン**： 一度に多くの X ボートを係留するための設備であり、本型には 8 基が設けられている。

**燃料タンク**： 両舷に 343Dt 分の燃料タンクが設けられている。



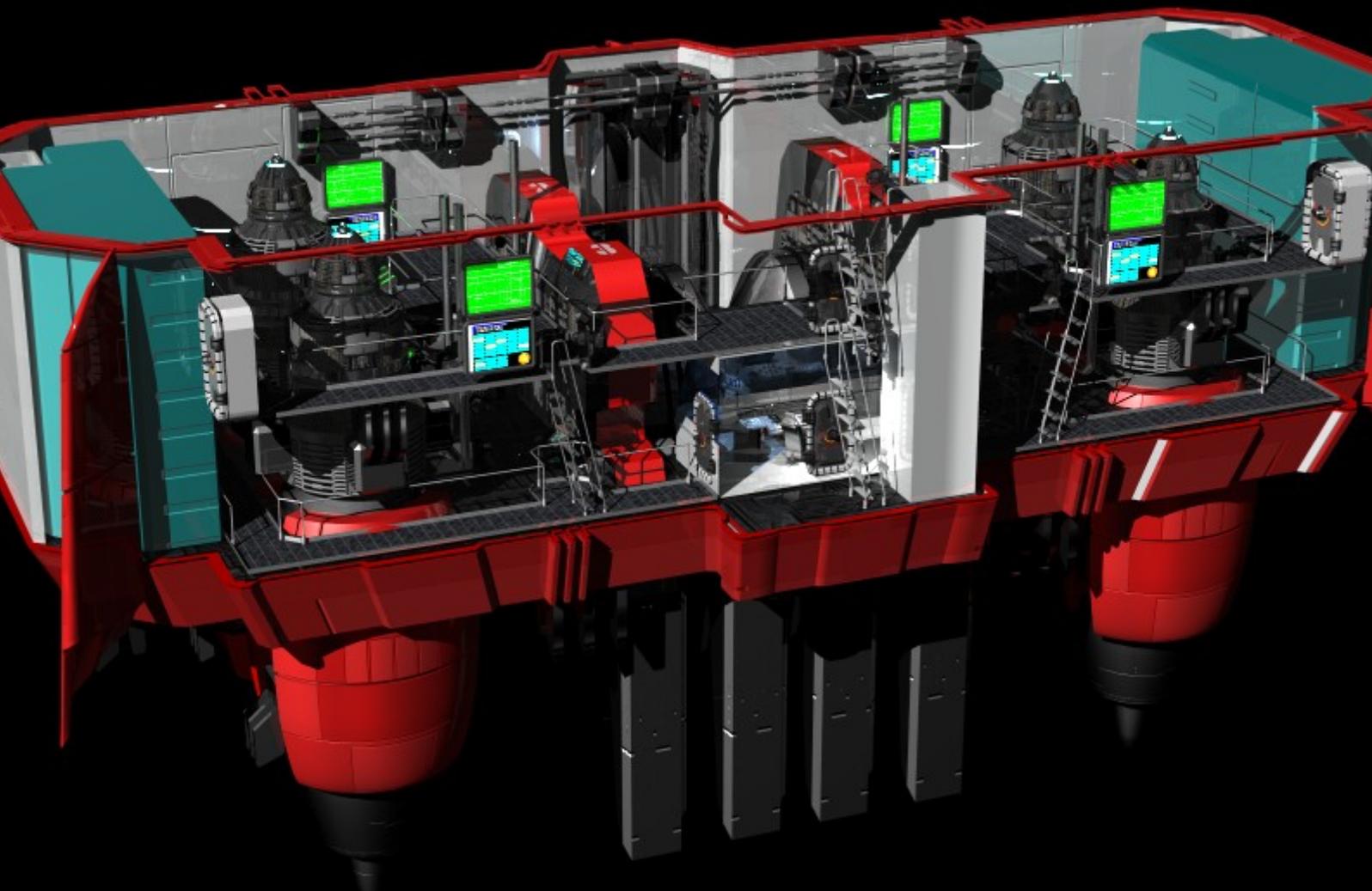
## Deck 16-17

エンジニアリング区画であり、機関制御室、燃料精製装置、燃料ポンプ、パワープラント、ジャンプドライブ、通常ドライブ、燃料タンクが設けられている

エンジニアリング区画は、船尾に設けられた2層吹き抜けのスペースで、ドライブ間には点検用のキャットウォークが設けられている。また非常用のエアロックも2箇所設けられており、ここには宇宙服や船外作業装備も収容されている。

**機関制御室**：Deck17 に設けられているエンジニアリング区画の制御室であり、艦の限定的な副艦橋としての能力も有している。

**燃料精製装置**：高人口世界では、燃料精製装置の必要性が低い場合があるため、幾つかの艦では燃料精製装置が省かれている。高人口世界のXポート回収ゾーンでは、多数のXポートを運用するために、複数の連絡補給艦が配置されている。連絡補給艦の周囲には、貨物、燃料の集積空間が設けられており、高純度の燃料が主世界からマストライバーで定期的に移送されてくる。このような世界では、何隻かの連絡補給艦が、貨物輸送専用艦、燃料輸送艦に改造されている。



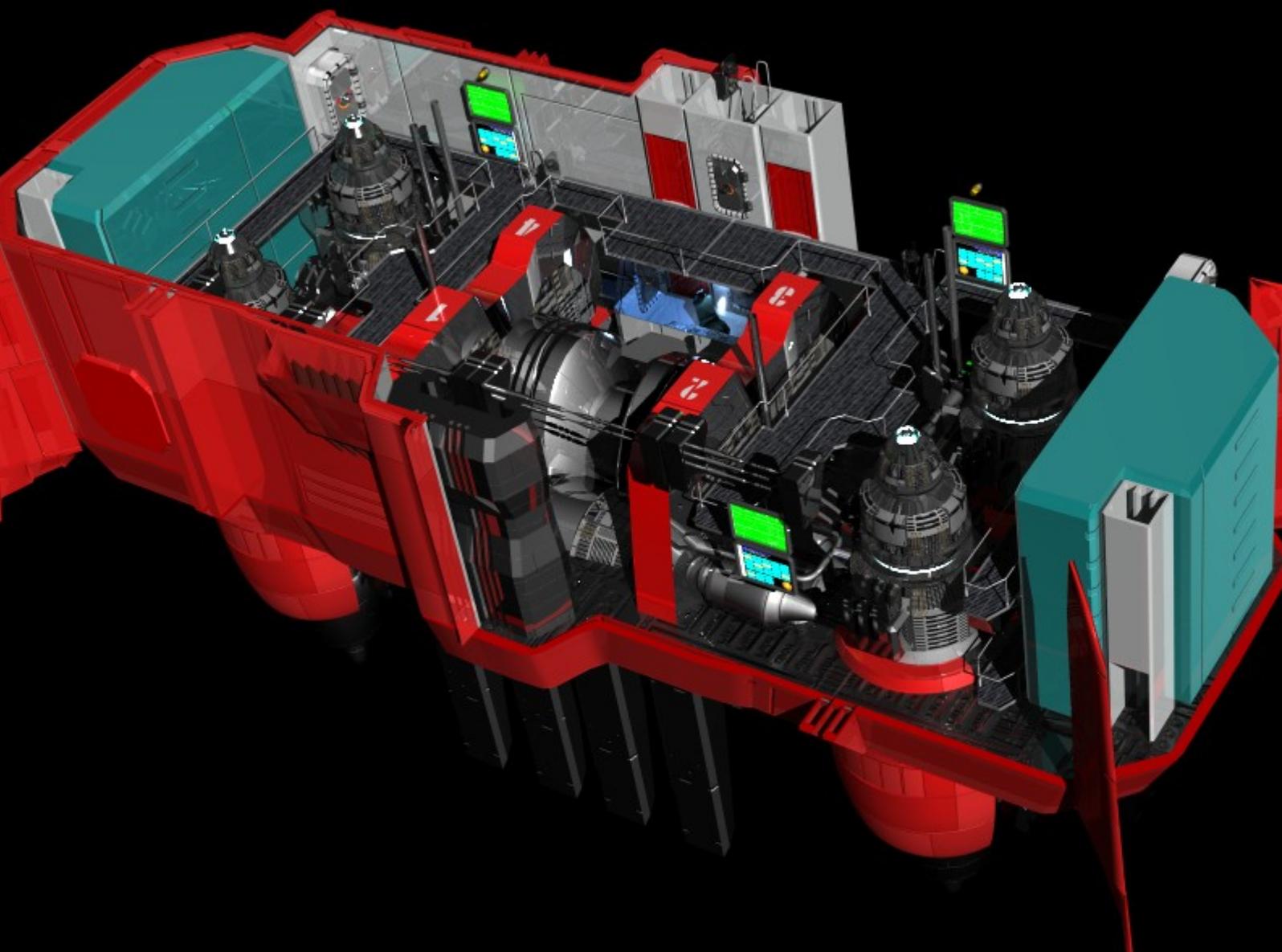
**燃料ポンプ**：巨大な燃料タンクに保管されている燃料を各種ドライブに送り込んだり、Xポートに再補給したりするために、強力な燃料ポンプが Deck17 に設けられている。

**パワープラント**：連絡補給艦には、790Mw の核融合炉 4 基が搭載されており、合計出力は 3161Mw である。

**ジャンプドライブ**：連絡補給艦の、FTL ジャンプ能力は 4 パーセクで 1000Dt/1パーセク級のFTL ジャンプドライブユニット 4 基が船尾に搭載されている。

**通常ドライブ**：250Dt/1G 級のダブルインパルス型スラスト通常ドライブ 4 基が搭載されている。250Dt/1G 規格は、通常の船用規格からは外れており、200Dt/1G タイプのものを拡大強化した特殊な形式が用いられている。

これらのジャンプドライブユニットは、コストダウンのために偵察局規格ではなく民生用品が転用されて用いられている。これらの機関ユニットは容易に取り外すことができ、整備性が高い。



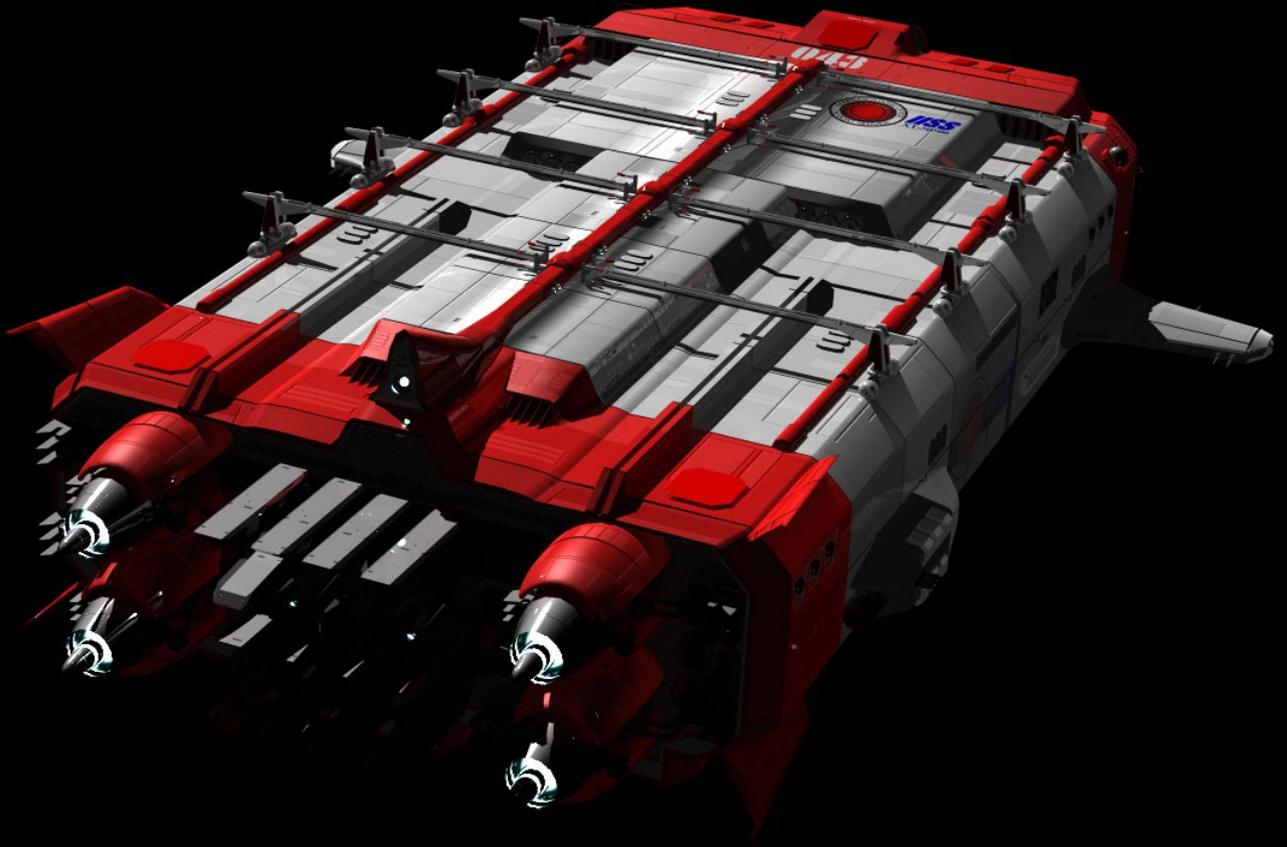
## XT-410 型連絡補給艦の派生型

比較的建造しやすい単純な構造であることから、既に多くの派生型が建造されている。

**タンカー艦**：偵察局では、大規模な X ポート回収ゾーンでの効率的な中継任務を実現するために、格納庫撤廃してそのスペースを全て燃料タンクに置き換えたタイプを運用している。

**移動式倉庫艦**：偵察局では、大規模な X ポート回収ゾーンでの効率的な中継任務を実現するために、格納庫を撤廃してそのスペースを全て貨物保管倉庫に置き換えたタイプを運用している。宇宙空間の係留区画に放置できないような、比較的高価値のコンテナを収容できるように、格納庫が改造されている。係留クレーンは撤去されている場合が多い。

**基地支援艦**：偵察局では、大規模な偵察局基地への補給任務のために、格納庫を撤廃してそのスペースを貨物エリアに置き換えたタイプを運用している。このタイプでは Deck04 から Deck08 までの構造が Deck03 と同一のコンテナ収容スペースとなる。これらの貨物区画は、2 デッキずつがまとめられた吹き抜けの構造となり、天井の高さは各 6m となる。貨物管理室とコンテナ用エアロックは偶数 Deck にのみ設けられる。残る Deck はばら積み区画となり、やや小型の開閉ハッチが設置される。



**タンカー**：水素燃料，真水，石油，天然ガス等の各種原材料や，加工済液体工業製品を輸送するために，格納庫を撤廃してそのスペースを全て液体タンクに置き換えたタイプである。海軍は，有事の際の徴用を条件に水素燃料タンカーの建造に補助金を出している。

**コンテナ船**：格納庫を撤廃してそのスペース全てをコンテナエリアに置き換えたタイプである。このタイプでは Deck04 から Deck10 までの構造が Deck03 と同一のコンテナ収容スペースとなっている。これらの貨物区画は，2 デッキずつがまとめられた吹き抜けの構造となり，天井の高さは各 6m となる。貨物管理室とコンテナ用エアロックは偶数 Deck にのみ設けられる。大規模な荷役ヤードに頼ることができる定期船の多くはクレーン設備を廃止している。

**鉱石運搬船**：所謂ばら積み船の一つである。グリッソンを始めとした小惑星世界からレアメタル等の原材料を運搬する船で，X ボート格納庫が鉱石用の貨物ホールドに改造されている。各貨物ホールドは，密度の大きな鉱石の運搬に耐えられるように強化されており，専用の荷役設備も設けられている。鉱石の種類ごとに更に専用船が作られている場合も多い。

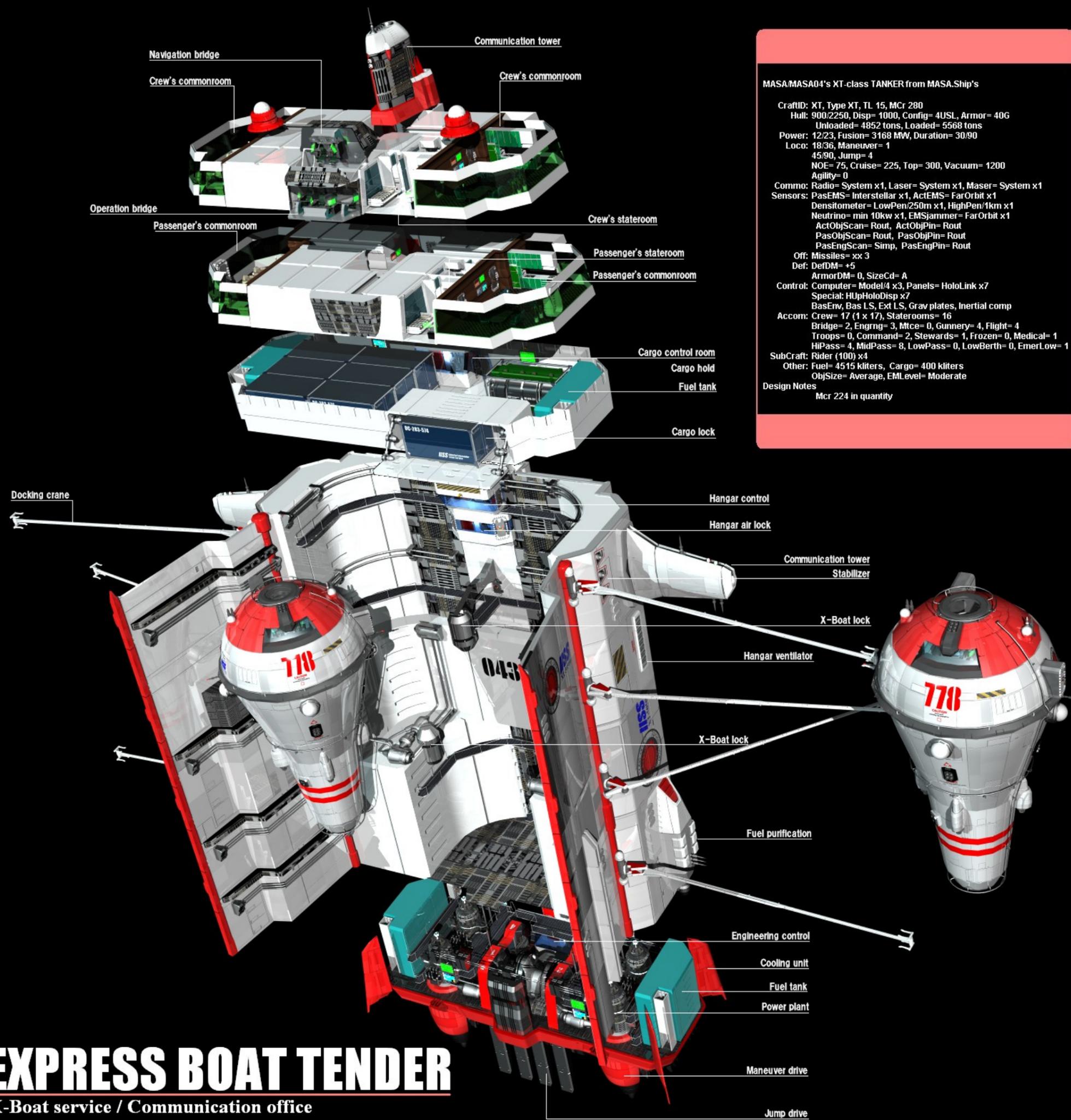
メガコーポレーションから，地場の採掘業者まで，様々な業者がこのような鉱石運搬船を運用してきた実績がある。この形式では巨大な開閉ドアは廃止されて，より小型のハッチが幾つか設けられることになる。貨物ホールドは，通常は 5 つ程度に小分割して設けられることとなる。



**穀物運搬船**：所謂ばら積み船の一つである，Xボート格納庫が比重の小さい穀物の運搬専用に変更されており，搭載物に従い専用の荷役システムが構築されている。

**冷凍・冷蔵運搬船**：断熱材で覆われた船倉と温度管理装置を備えた，食料運搬船である。それ以外の基本的なデッキ構造はコンテナ船と同一である。



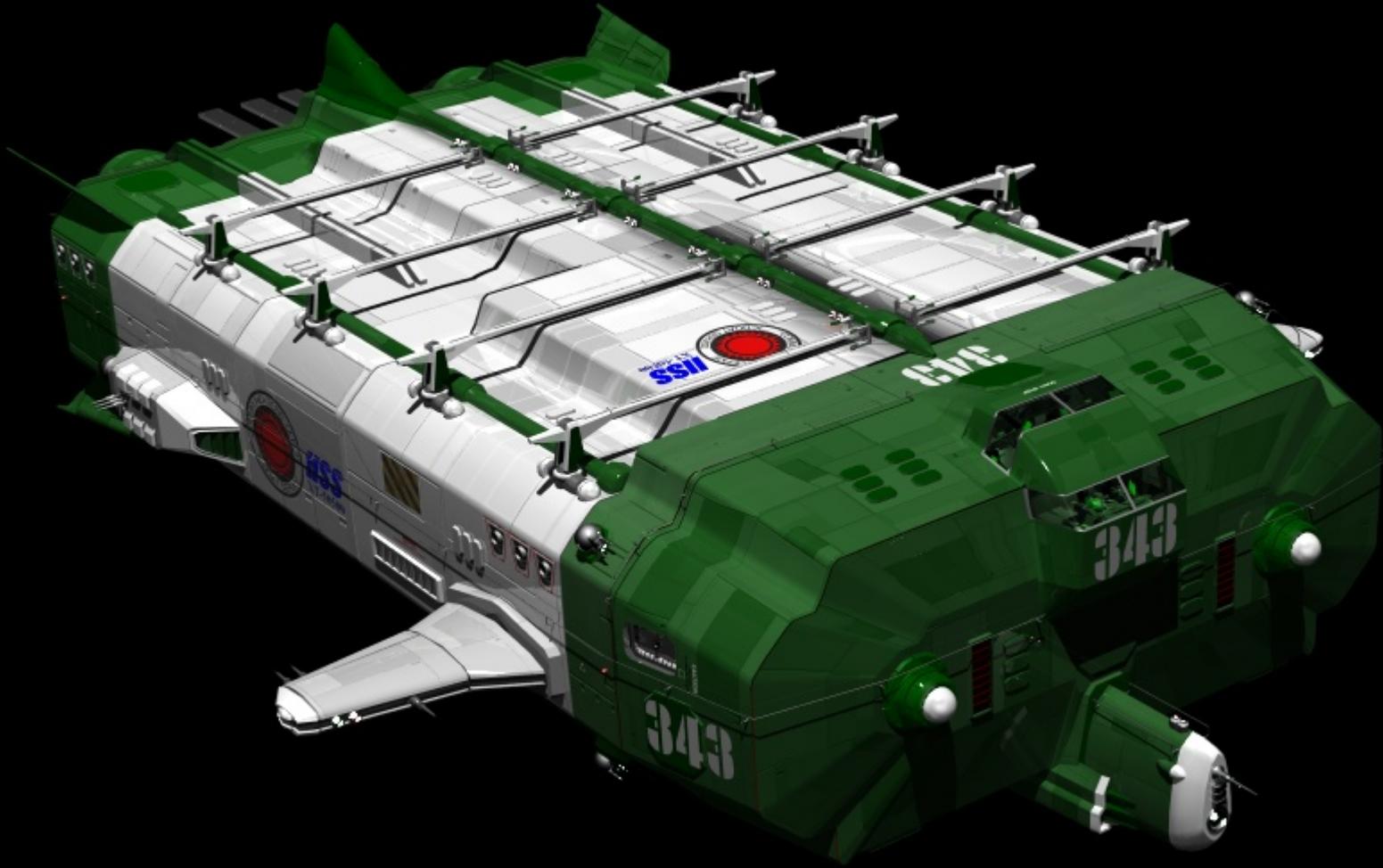


MASA/MASA04's XT-class TANKER from MASA.Ship's

CraftID: XT, Type XT, TL 15, MCr 280  
 Hull: 900/2250, Disp= 1000, Config= 4USL, Armor= 40G  
 Unloaded= 4852 tons, Loaded= 5568 tons  
 Power: 12/23, Fusion= 3168 MW, Duration= 30/90  
 Loc: 18/36, Maneuver= 1  
 45/90, Jump= 4  
 NOE= 75, Cruise= 225, Top= 300, Vacuum= 1200  
 Agility= 0  
 Commo: Radio= System x1, Laser= System x1, Maser= System x1  
 Sensors: PasEMS= Interstellar x1, ActEMS= FarOrbit x1  
 Densitometer= LowPen/250m x1, HighPen/1km x1  
 Neutrino= min 10kw x1, EMSjammer= FarOrbit x1  
 ActObjScan= Rout, ActObjPin= Rout  
 PasObjScan= Rout, PasObjPin= Rout  
 PasEngScan= Simp, PasEngPin= Rout  
 Off: Missiles= xx 3  
 Def: DefDM= +5  
 ArmorDM= 0, SizeCd= A  
 Control: Computer= Model/4 x3, Panels= HoloLink x7  
 Special: HUPHoloDisp x7  
 BasErw, Bas LS, Ext LS, Grav plates, Inertial comp  
 Accom: Crew= 17 (1 x 17), Staterooms= 16  
 Bridge= 2, Engrng= 3, Mtce= 0, Gunnery= 4, Flight= 4  
 Troops= 0, Command= 2, Stewards= 1, Frozen= 0, Medical= 1  
 HiPass= 4, MidPass= 8, LowPass= 0, LowBerth= 0, EmerLow= 1  
 SubCraft: Rider (100) x4  
 Other: Fuel= 4515 kliters, Cargo= 400 kliters  
 ObjSize= Average, EMLLevel= Moderate  
 Design Notes  
 MCr 224 in quantity

# EXPRESS BOAT TENDER

X-Boat service / Communication office



# Credits

## Staff

Ship Design: MAG

CG Models: MAG

Web Master: 化夢宇留仁

## Generators

Ship Design: Cray Bush's Worksheet for Lotus 123

## 3D Modeling

M4 Models: Shade 8.5

Rendering: Shade 8.5, Vue5